



小坂井 実 議員

コミュニティバスは、地形や人口を踏まえた見直しを

問 コミュニティバス【】について聞く。

11年から運行していた巡回福祉バスに代わった市営バス。22年の導入時に、運賃有料化等、路線バス色を強めた。

- (1) 24年度、1億1千300万円の予算が組まれているが、運賃収入の見込みは。
- (2) 21年度巡回福祉バス委託料は、4千761万円だった。無料でバス停は多く、良心的だったと聞いている。
- コミュニティバスに移行した理由を聞く。
- (3) 3ルートあるが、地形も人口密度も違う。視点を变えた根本的な見直しが必要ではないか。

デマンド方式も考えていきたい

答 総務部長
500万円を見込んでいます。

答 防災安全課長

(2) コミュニティバスへの変更は、運休日の(多い)不便感、通勤に使えるよう改善するために行った。

答 市長

(3) 東部と北部ルートが思惑と大きく違っている。停留所の改善を加えながら、デマンド方式【】も考えていきたい。

規定路線外を主に走る乗り合いタクシー方式。事前に電話等で予約し、それぞれの目的地で順次乗降する。

学区と避難所は別で検討を

問

十四山地区の避難所建設(計画)について聞く【関連

記事13面】。

(1) 市長は、栄南地区の次は十四山に避難所を建てると言ったが、十四山中学校の武道場建設取り止めの思いを聞く。

(2) 中学校区の見直しは、もっと大きなことだと感じる。

避難所と学校は結び付けず、近くで避難できる施設が、住民としては望ましいのではないかと。

分けて考えるが今が検討するとき

答 市長

(1) 武道場建設を考え、設計を計画していたが、体育館も老朽化しており、体育館イコール避難所という考え方でどうかと思っている。

栄南学区の後には十四山地区を選定し、24年に場所選定、25年後半か26年前半に建設計画で竣工したい。

避難場所と中学校の望ましいあり方は、分離しながら

ら考えていきたい。

(2) 十四山中学校の望ましいあり方について、例えば集団でやる部活ができない。右肩下がり生徒数が減っていく状況を認識し、方向性を考えるときが今、来ていることを理解してほしい。地域、保護者、教育委員会、行政が知恵を出し、生徒にとって望ましいあり方で検討していきたい。

避難所は、財政との兼ね合いもあり、総合的に建設計画を進めていきたい。



十四山中学校に隣接する十四山体育館